

林野庁 近畿中国森林管理局
箕面森林環境保全ふれあいセンター

平成21年度 活動報告(年報)



目 次

はじめに	
自然再生への取組	1
森林環境教育への支援	19
森林ボランティア活動への支援	24
グループ対抗里山テジカメ選手権	27
その他	29

はじめに

「森林環境保全ふれあいセンター」は林野庁の出先機関で、全国に11箇所設置されており、国有林野を活用し、NPO等が行う自然再生活動、生物の多様性の保全等や教職員その他の者が行う森林環境教育等に対して、技術的指導その他の支援等の取組を行っています。

箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、平成16年4月の設置以来6年が経過し、根幹となる継続した活動の外、新たな活動にも積極的に取り組んでいます。

本年度、新たな活動としては、今まで開発してきた「森林教育プログラム」を活用するために、その素材となる森林環境教育の教材等を、各道府県、森林ボランティア団体、森林管理局、森林管理署等から収集・整理し、教育関係者等の専門家からなる選定会議において推奨事例を選抜し、「森林環境教育推奨事例集」を作成することができました。この「森林環境教育推奨事例集」は小学校における学習指導要領に沿った単元学習とその展開にも活用できるよう取りまとめていますので、教室や校庭での学習から国有林等の森林をフィールドとした学習まで、小学校と森林管理署等が連携協力して、子どもたちの「生きる力」を育む森林環境教育の充実に役立てていただけるものと思っています。

また、継続した事業として①箕面国有林のエキスポ'90みのお記念の森一帯（大阪府箕面市）において、森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上に資するため、平成20年5月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基づき整備を行うとともに、その一環として、小学生、幼稚園児、ボランティアなどの住民参加によりクヌギ、コナラをドングリから育てる「オオクワガタの棲める森づくり」の取組、②大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針を作成するため、三重県と奈良県の県境に位置する大台ヶ原一帯において、関係行政機関・NPO等と連携し、ニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査等の実施、③教育関係機関、森林ボランティア団体等と連携し、小・中学校の教諭を対象とした森林環境教育セミナーの開催、④森林ボランティアリーダー養成スクールフォローアップ事業として、養成スクール修了生へのアンケート調査やこれまでの養成スクールの実施内容の検証等を行い、森林管理署等における実施の参考となるような体系的なモデルカリキュラムを作成するため、アンケート調査結果の分析、⑤里山の再生・整備活動や森林環境教育に主眼を置き、「身近な森林の再発見」をテーマとして、学校、森林ボランティア、企業、家族等のグループを対象とした「グループ対抗里山デジカメ選手権」の開催等に取り組みました。

平成21年度もほぼ計画どおり活動を行うことができました。これも関係者の皆様のご理解とご協力によるものであり、心から厚く御礼申し上げます。

平成22年3月

箕面森林環境保全ふれあいセンター所長 清水好美

自然再生への取組

「箕面体験学習の森」整備事業

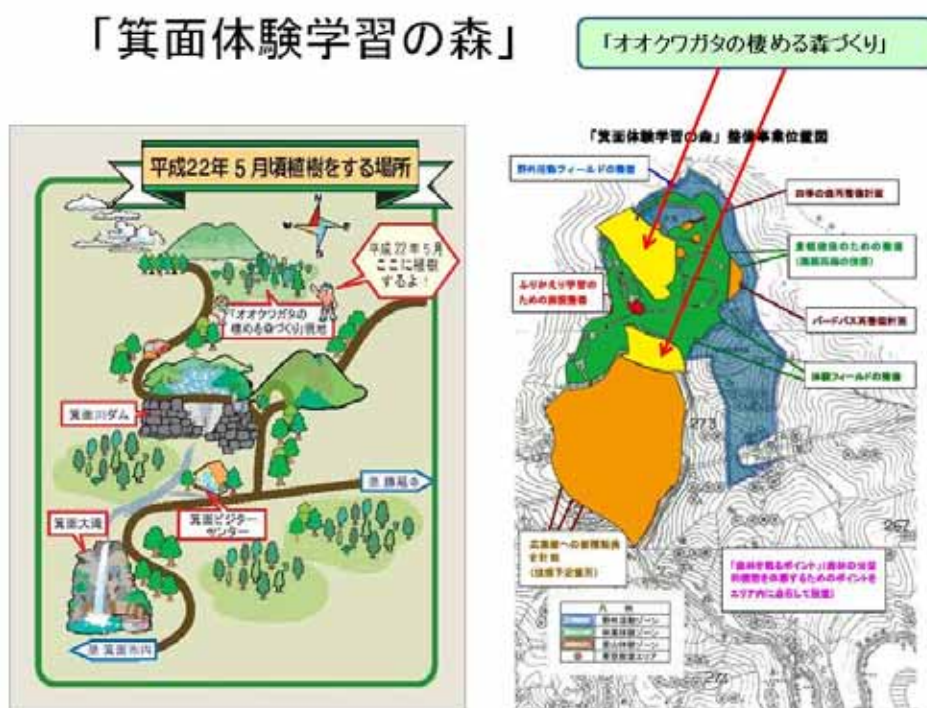
趣旨

大阪府の北部に近接する箕面国有林を含む北摂地域は、かつて台場クヌギを仕立てて菊炭を生産するなど、活発な里山の利用が行われていましたが、現在では、スギ、ヒノキの人工林が大半を占めている状況にあります。

当センターでは、平成18年度まで里山再生推進モデル事業を実施し、具体的な里山再生メニューの決定及び里山整備、伐採木の利用、里山再生ガイドラインの作成等に取り組んできました。

これらの取組結果も踏まえ、里山モデル林を含む地域において、積極的な広葉樹の育成や伐採等による木材利用及び菊炭づくり体験など、森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上を目指し、平成20年5月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基づく里山整備に着手しました。特に、展望台周辺のヒノキ、スギを伐採し、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹に転換する「オオクワガタの棲める森づくり」(別紙)プロジェクトを展開しているところです。

当該事業の実施に当たっては、京都大阪森林管理事務所やボランティア団体と連携・協力を密にするとともに、当該事業に関連した森林環境教育プログラムの普及啓発などの取組との有機的な連携を図っています。



「箕面体験学習の森」及び「オオクワガタの棲める森づくり」位置図

事業内容

1 場所

大阪府箕面市箕面国有林（エキスポ'90みのお記念の森）

2 内容

(1) 「箕面体験学習の森」整備事業検討委員会等の開催

(2) 「箕面体験学習の森」中心部において「オオクワガタの棲める森づくり」の実施

「箕面体験学習の森」整備事業検討委員会等

委員会・部会委員（五十音順、敬称略 〃は座長及び部会長）

氏名	所属・職名	委員会	整備部会	利活用等 検討部会
奥 敬一	(独)森林総合研究所関西支所 主任研究官			
松山尚文	箕面市教育センター 所長			
鎌谷計三	清水谷をまもる会 代表			
木山雅博	明治の森箕面国定公園ビジターセンター 所長			
玉木 優	大阪府北部農と緑の総合事務所 緑地整備課長			
服部 保	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授			
山下宏文	京都教育大学 教授			
山本 博	NPO法人 日本森林ボランティア協会 事務局長			

平成21年度事業計画と各種整備について検討(第1回整備部会)

6月29日(月)、平成21年度事業計画等について検討するための整備部会を箕面国有林で開催しました。

部会においては、「サル被害も懸念されるが、実際の被害の状況を見て対応を検討すればよい」、「伐採後に植樹する苗木の確保状況はどうなっているのか」、「大阪府の計画については、実施できるものがあれば進める」などの意見があり、「苗木については、2カ年で植樹することで対応しており1年目の苗木の確保はほぼできている」と回答しました。また、「昆虫ベッドの設置を行う際に、カブトムシの幼虫も確保した方がよい」などの意見があり、事業を推進する中



昆虫ベッドの設置場所を確認

で検討することとしました。その後、昆虫ベッドの設置場所等について現地確認を行いました。

具体的整備を開始、今後の推進について検討 (第1回検討委員会)

10月7日(水)、箕面国有林において、平成21年度第1回目の「箕面体験学習の森」整備事業検討委員会を開催しました。

服部保座長をはじめ7名の委員の出席により、事業実施内容及び日程、整備部会報告、伐採、搬出及び防鹿柵の設置などについて議論が交わされました。

事業実施内容等については、植樹行事の実施体制として各方面の協力が得られるように検討が必要、整備部会報告では昆虫ベッド設置について、伐採、搬出については、本年12月から京都大阪森林管理事務所により事業が実施される見込み、事業終了後は防鹿柵の設置を行うこととなるなど、今後の計画等について意見をいただきました。



エキスポの森花の谷の東屋で議論

植樹行事の骨子等について議論、植樹箇所の現地確認 (第1回利活用等検討部会)

平成22年1月15日(金)、3月23日の箕面市立豊川北小学校ほかの植樹行事、5月9日の地域住民参加に



植樹箇所の現地確認

よる植樹行事について検討するために、利活用等検討部会を明治の森箕面国定公園ビジターセンター研修室で開催しました。「雨天時でも決行すること」、「駐車場スペースについて問題がないか調査を行うこと」、「クヌギ、コナラ以外の広葉樹の植樹箇所については、植樹行事当日に植樹箇所を指示する」など意見が交わされました。また、他の地域からの樹種の混入への対応策などについても検討し、植樹の考え方等について意見をいただき、植樹行事の骨子(案)を立てることになりました。午後はエキスポの森へ移動し、植樹予定箇所の確認を行いました。当日は、植樹を行う予定の展望台付近でヘリコプター集材(京都大阪森林管理事務所の請負事業)が行われており、視察することができました。

当初集材は、簡易作業路の作設により林内作業車で搬出を行う計画でしたが、砂防指定地となって

いるため手続きが困難なことや、公園内であるため搬出期間を短くする必要などから、ヘリコプターによる集材となりました。搬出後は、引き続き地拵え（請負事業）が行われます。

平成21年度事業の実施結果及び 今後の展開について確認 (第2回検討委員会)

平成22年2月17日(水)、第2回検討委員会を明治の森箕面国定公園ビジターセンター研修室において開催しました。

「箕面体験学習の森」利活用等検討部会から報告を受け、3月23日開催予定の箕面市立豊川北小学校、とどろみ幼稚園、なか幼稚園の植樹行事について実施体制等検討を行い、委員参加により実施することを確認しました。

平成21年度事業の実施結果では、「オオクワガタの棲める森づくり」を重点に活動し、今年度は新たに箕面市内の小学校1校、幼稚園1園の参加が得られ、クヌギやコナラなどの苗木育成も順調に進めることができているなどを報告しました。

また、平成21年度事業の実施結果報告及び今後の事業の展開等については、当取組をPRするための広報用パンフレットの作成等も含めて計画を立てることなどの意見をいただきました。

午後はエキスポの森へ移動し、伐採跡地の現状を確認し、一部実施済みの防鹿柵の設置状況を視察しました。



ヘリコプター集材



防鹿柵の設置状況を確認

オオクワガタの棲める森づくり

目的

当センターでは、当該地域の国有林において積極的な広葉樹の育成や伐採等による木材利用及び菊炭づくり体験等、子どもたちを対象とした森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上に資するため、「箕面体験学習の森」の整備を開始しました。

整備は主に、「箕面体験学習の森（エキスポ'90みのお記念の森）」の中心にある展望台の周辺において、かつての森を再生するため、ヒノキ、スギ林からクヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林への転換を目指しています。

この取組は、住民参加型とし、小学生、ボランティア等により、苗木の育成、植栽、下刈等の一貫した取組を継続して行うこととしています。

特に、森林環境教育の一環として、箕面市内の小学生及び幼稚園児に苗木の育成から植栽を体験してもらい、①「森林」が豊かな体験を提供する場であること、②「森林」が正しい知識を得る場となること、③「森林」が生活や日本人とのかかわりをつくりあげていく対象となること等「気づかせるきっかけづくり」となることを目指しています。

実施場所

箕面国有林「箕面体験学習の森」（エキスポ'90みのお記念の森）

事業計画

1) 植栽予定樹種

クヌギを中心に、コナラ、エドヒガン、ヤマザクラ、カスミザクラ、アカシデ、イヌシデ、リョウブ、エゴノキ、イロハカエデ、クマノミズキ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ等の落葉広葉樹

2) 種子

ア 種子の確保

コナラなどの落葉広葉樹については、箕面国有林内、若しくは箕面国有林が所在する流域内で集めます。ただし、クヌギは、学術的に地域個体差が無いことから、上記以外で集めたものも可とします。

イ 小学校等の参加

箕面市内の小学校、幼稚園及びボランティア団体に趣旨の賛同を得て、クヌギ、コナラ等の種子を集めます。

3) 育苗

クヌギ、コナラについては、箕面市内の小学校、幼稚園及びボランティア団体等により行うとともに、その他の樹種は、地元住民及びボランティア団体等で育苗を行います。

4) 植樹

箕面市内の小学校、幼稚園、ボランティア団体及び地元住民参加により、クヌギ、コナラ等の植樹を行います。

5) 保育

伐採後の地拵、防鹿柵の設置については、NPO法人日本森林ボランティア協会等により行います。
下刈や除伐、間伐についてはNPO法人日本森林ボランティア協会により実施するほか、趣旨に賛同する学校及び地元住民参加により実施します。

6) 台場クヌギ仕立て

クヌギ、コナラは植栽後15～20年を経過した時点で伐採し、萌芽を促すことにします。伐採した材は、炭焼きやシイタケ原木等に利用します。以降8年間隔で萌芽更新により循環するように伐採を繰り返します。

参加団体等

- | | |
|---------------|--------------------|
| ○箕面市内の小学校、幼稚園 | ○箕面市内のボランティア団体 |
| ○箕面市内の住民 | ○NPO法人日本森林ボランティア協会 |
| ○大阪府 | ○近畿中国森林管理局 |
| ○京都大阪森林管理事務所 | ○箕面森林環境保全ふれあいセンター |

「オオクワガタの棲める森づくり」への参加状況

1) 箕面市内の小学校

- ・箕面市立萱野北小学校 (H20: 1年生、2年生116名、H21: 4年生58名、※1、※2、※3)
- ・箕面市立豊川北小学校 (H20: 4年生、5年生の164名、H21: 4年生66名、※1、※2、※3)
- ・箕面市立箕面小学校 (H20: 児童、保護者36組、※2)
- ・箕面市立西南小学校 (H21: 4年生107名、※2、※3)

2) 箕面市内の幼稚園

- ・箕面市立とよかわみなみ幼稚園 (H20: 園児74名、※1、※2、※3)
- ・箕面市立とどろみ幼稚園 (H20: 園児20名、H21: 園児35名、保護者30名、※2、※3)
- ・箕面市立せいなん幼稚園 (H20: 園児33名、H21: 園児34名、※2、※3)
- ・箕面市立なか幼稚園 (H20: 園児50名、H21: 園児41名、※2、※3)
- ・箕面市立かやの幼稚園 (H20: 職員のみ、H21: 園児60名、※2、※3)
- ・箕面市立ひがし幼稚園 (H21: 園児45名、※2、※3)

3) 地域住民の参加状況 (箕面市ほか近隣の地域から参加)

- ・箕面市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェア」
(H20: 80組、H21: 3組、※2、※3)
- ・箕面市立西南図書館 (H21: 54組、※2、※3)
- ・グリーンフェスタ2009 (H21: 56組、※2、※3)
- ・箕面市イベント「箕面の森の音楽会」(H21: 12組、※2、※3)
- ・その他の団体 (H20: NACL40組、フォーラムみのおBGC18組、※2、※3)

(注: ※1はドングリ拾い、※2は植木鉢への埋め込み、※3は育成)

具体的な取組状況

1) 伐採に関する周知

昨年夏に実施したアンケート調査により、伐採について、ある程度地域住民等に周知できたと考えられるが、更に周知が必要との判断から、エキスポの森内の園路脇に、現在、伐採後（予想図）、10年後（予想図）を示した看板（図-1）を、平成21年4月から掲示しました。

2) 地域住民への参加の呼びかけ

子どもたちへの取組のほか、地域住民にも参加を呼びかけるため、平成21年3月20日（日）・21日（祝）の2日間開催された箕面市民イベント「みどり生き生きのお生き生き 体験フェア」に出展し、取組の趣旨説明のパネル展示や苗木育成の参加受付を行い、80組から申し込みがありました（写真-1）。今年度は、4月4日（土）に開催された箕面市立西南図書館のイベントに参加し、取組の概要等を説明し苗木育成の参加受付を行ったところ、54組から申し込みがありました。5月16日（土）は、近畿中国森林管理局に隣接のOAPで開催された「グリーンフェスタ2009」にも出展し、パネル展示と苗木育成の参加受付を行い、56組からの申し込みがありました。

また、子どもたちが楽しんで長く記憶に残る取組になるように、大阪市在住のシンガーソングライターの

彩さんに作詞作曲をお願いし、「オオクワガタの棲める森づくり」のイメージソング「未来の森」（図-2）として、誰でも容易に口ずさめる楽しい曲に仕上がったところです。



（図-1）



（写真-1）



未来の森

作詞・作曲・うた 彩 編曲 村上喜洋

森で見つけたよどんぐりを
大きいものも小さいものも
みんなで夢中であつめたら
土の中にそっと埋めて行こう

いくつもの夜
いくつもの雨も
ゆっくり越えて
世界でひとつの芽を出す

※ 緑の森を作ろう
ボクらの未来の森
一緒に生きる友達
出来た気がしたんだ
小さな命

悲しい事があった時は
森の中に行って深呼吸
嬉しい事があった時は
大きな声で歌いたい

いくつの季節
いくつの年を
ゆっくり越えて
どんとどんとどんと伸びてく

☆ 緑の森を作ろう
ボクらの未来の森
鳥も虫も動物も
一緒に生きて行こう
命の森で

※・☆ くりかえし

（図-2）

彩さんは、昨年「森林^{もり}の市」と合同で開催された天満音楽祭に出演された縁で、曲作りをお願いしたところ、快く引き受けていただきました。「未来の森」は、箕面市のFMラジオ放送「タッキー816みのおエフエム」で取り上げられて、彩さんも出演し歌っていただきました。

今後も多くの方がこの曲を聴き、「オオクワガタの棲^すめる森づくり」に参加いただけるよう引き続き取り組んでいきたいと考えています。

3) 小学校等の取組状況

今年度も箕面市内の小学校、幼稚園への取組を行っています。平成21年11月2日(月)には、豊川北小学



(写真-3)



(写真-5)



(写真-2)



(写真-4)

校4年生66名と萱野北小学校4年生58名の合同イベントとして箕面国有林エキスポの森で開催し、ドングリ拾いやドングリのポット埋め込み(写真-2)、兵庫県立大学の服部保教授のお話(写真-3)、木エクラフト(写真-4)、昆虫ベッドへ入れる落ち葉拾い(写真-5)と盛りだくさんのメニューで実施しました。

4) その他の取組

ア) 昆虫ベッドの設置状況

カブトムシなどの昆虫の生育できる森林環境教育施設整備の一環として、平成21年10月18日(日)、NPO法人日本森林ボランティア協会の活動日に、エキスポの森内のクヌギの多い場所に昆虫ベッドの設置を行いました。「箕面体験学習の森」整備事業第1回検討委員会で、設置する場合の注意点としてモグラやイノシシによる食害を防止するため、枠の内部及び外側に金網を敷き込む工法とし、本体

は120cm四方で高さは70cmで設計をしています。

この昆虫ベッドに11月2日(月)に、萱野北小学校の児童たちの拾った落葉広葉樹の葉っぱが入れられました。

イ) 防鹿柵の設置

平成22年2月14日(日)、NPO法人日本森林ボランティア協会の活動日に、展望台付近の区域から防鹿柵の設置を開始しました。

展望台付近の植樹箇所隣接して木道などのある花の谷を含む区域を、シカの食害から今年春に植樹する苗木を守るために防鹿柵、歩道の入口はグレーチング式階段工(大台ヶ原でシカの侵入を防ぐために環境省で



昆虫ベッドの設置状況



防鹿柵の設置状況



グレーチング式階段工(大台ヶ原の設置状況)

実施している階段で、シカの足が隙間に入ることからシカが嫌がり、人の子供の足は落ち込まない大きさの設計となっている)を設置することになっています。

おわりに

小学校や幼稚園から、「オオクワガタの棲める森づくり」への参加を通して「自然の中の生命や、それを自分たちで守り育てなければという意識を子どもたちが持つきっかけになってほしい」、「ドンダンはおもちゃとしてばかりでなく生きているという体験ができてよかった」といった感想が聞かれるなど、森林環境教育の一環として徐々に成果が出てきていると感じています。

今後の取組としては、苗木育成に取り組んでもらっている方々を対象にカミネッコン(再生紙段ボール型枠)を使った植樹行事を行う予定にしています。

植樹後は、下刈や間伐等の保育作業を引き続き行い、十数年後からは順次台場クヌギに仕立てていく予定で、今後もボランティア団体や教育機関、地域住民の方々と連携を図りながら、箕面国有林を子どもたちの森林環境教育のフィールドとして長期にわたって有効に活用できる取組を続けて行こうと考えています。

大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策

趣旨

三重県と奈良県の県境に位置する大台ヶ原一帯では、昭和30年代に伊勢湾台風等大型の台風の影響により大量の亜高山性針葉樹林(トウヒ・ウラジロモミ等)が倒れたため、林内に多量の光が入り込み、急速にミヤコザザが増加し、ニホンジカの好適環境が出現したことによりニホンジカが増加し始めました。

現在、増えすぎたニホンジカとその他の複合的な要因により森林の衰退が進んでいます。

三重森林管理署管内の大杉谷国有林でも、高木の枯損やササ原化が進行するとともに、スギ、ヒノキの植栽地においては植栽木はもとより林床植生が消失し、一部で土砂流出や林地崩壊現象が見られます。

また、天然林においても高木層の消失により生物多様性が著しく損なわれるなど、国有林内に設定している「大杉谷森林生態系保護地域」も含めて森林生態系への影響が深刻化しています。

このため、ニホンジカによる森林被害の対策とニホンジカ保護管理計画を一体的に進めていく必要があることから、当センターと国有林を所管している三重森林管理署が、環境省、三重県、奈良県、関係町村、NPO等と連携して小規模防鹿柵、金網(ラス巻き)等の実証試験を行うこととし、「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」(以下「被害対策指針」という。)を作成するとともに、ニホンジカによる森林被害地における森林の再生及び保全のためのモデル事業を実施することとしています。

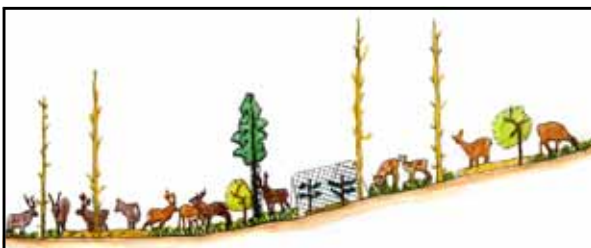
事業内容

- 1 場所
三重県多気郡大台町 大杉谷国有林

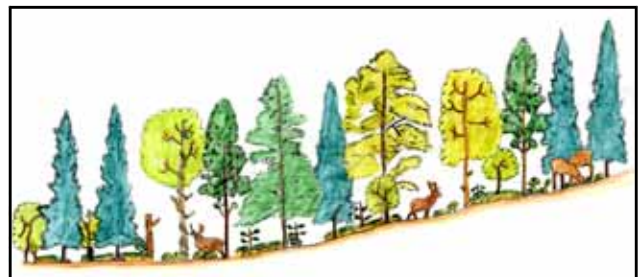
- 2 内容

「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」を設置し、以下の項目を総合的に検討して「被害対策指針」を作成する。

- (1) 「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」会合の開催
- (2) 共同試験地の調査及び維持
- (3) 森林の再生及び保全のためのモデル事業の実施
- (4) 普及啓発の実施
- (5) モニタリング調査

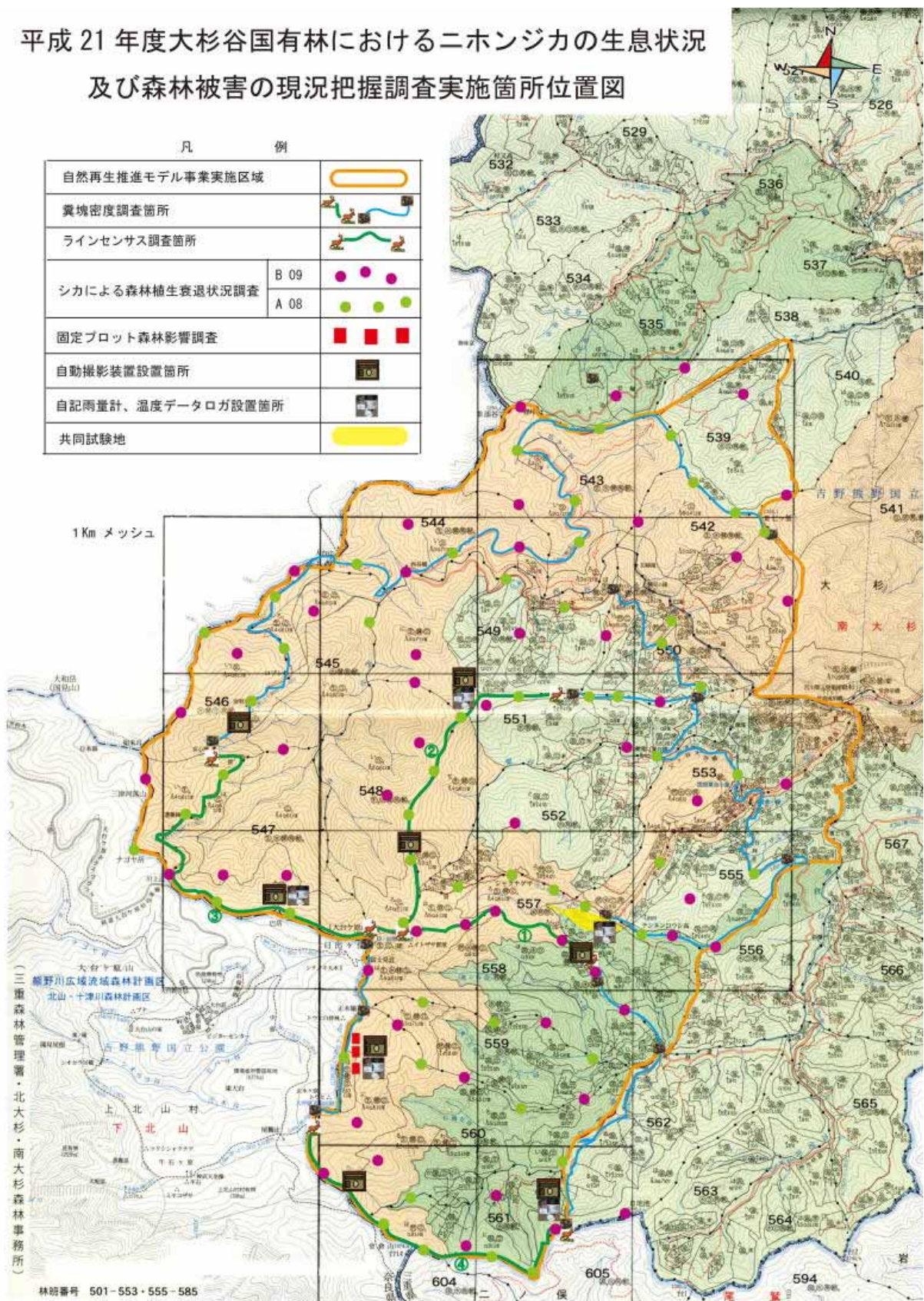


現在



将来

平成 21 年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況 及び森林被害の現況把握調査実施箇所位置図



「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」会合

ワーキングチーム委員（五十音順、敬称略）

【学識経験者委員】

氏名	所属・職名
佐野 明	三重県 林業研究所 主幹研究員
柴田 勲弼	名古屋大学大学院 名誉教授（座長）
高田 研一	NPO法人 森林再生支援センター 常務理事
高橋 裕史	(独)森林総合研究所関西支所 生物多様性研究グループ 主任研究員
日野 輝明	(独)森林総合研究所関西支所 野生鳥獣類管理チーム長
前迫 ゆり	大阪産業大学大学院 人間環境学研究科 教授

【地元関係者委員】

氏名	所属・職名
中世古太輔	三重県猟友会 会長
森 正裕	NPO法人大杉谷自然学校 事務局長
山本 勝征	林業関係者[大台町町議会議員、元校長]

【オブザーバー】

三重県、奈良県、三重県大台町、三重県紀北町、奈良県上北山村、奈良県川上村 環境省近畿地方環境事務所 (独)森林総合研究所林木育種センター関西育種場

【近畿中国森林管理局】

近畿中国森林管理局 計画部長、企画官(自然再生)、森林施業調整官、指導普及課保護林係長、国有林野管理課企画係長、森林整備課保護係長 三重森林管理署(署長、流域管理調整官) 奈良森林管理事務所(所長) 箕面森林環境保全ふれあいセンター<所長、自然再生指導官(自然再生担当、森林ボランティア担当)>

大杉谷国有林(三重県)におけるニホンジカによる森林被害対策 (第1回ワーキングチーム会合)

11月30日(月)及び12月1日(火)、奈良県川上村及び三重県大台町の大杉谷国有林において、大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針を検討するため、学識経験者、地元関係者、関係行政機関、国有林職員によるワーキングチームの第1回会合を開催しました。

1日目は、川上村において会合を開催し、名古屋大学名誉教授の柴田叡弍氏に座長をお願いし、議事を進めていただき、当センター及び調査委託先の担当から、平成21年度自然再生推進モデル事業大台ヶ原地域(大杉谷国有林)実施計画、平成21年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査の調査分析(概要)、大杉谷・大台ヶ原における近畿中国森林管理局と環境省近畿地方環境事務所で連携して実施できる調査等の検討について順次説明し、検討を行いました。

委員からは、モニタリング調査について、「ルートセンサスだけでなく、糞塊調査やカメラのデータなどを総合的に判断して、他の地域や大台ヶ原の環境省のデータと比較し、ニホンジカの生息密度が高いか低いか植生との関連でどういふところで見られるか、オスとメスの見える割合等を解析して報告されるとよい」などの意見等がありました。また、環境省との連携については結論が出ず、「大台ヶ原と大杉谷の両方で話し合い、その結果で次回検討させていただきたい」ということで会合を終了しました。

2日目は、大杉谷国有林に上がり、正木ヶ原周辺の森林において設定している固定プロット森林影響調査箇所のパッチディフェンス(防鹿柵)を現地踏査し、柵の中の植生の状況等を確認しました。

平成21年度の調査概要

1. 糞塊密度調査
ニホンジカの生息密度を把握するための調査
2. ラインセンサス調査
ニホンジカの生息密度に関する季節変化等を把握するための調査
3. ニホンジカによる森林植生衰退状況調査
事業区域を1kmメッシュで18区画設け、各区画内でランダムに3箇所調査
4. 固定プロット森林影響調査
(1) 正木ヶ原周辺に30m四方のプロットを3箇所設定し、立木及び稚幼樹を調査
(2) 生育している稚幼樹の内、半数は3m四方の防護柵で囲み、残りの半数は囲わずに比較
5. その他
自動撮影装置の設置及び自記雨量計等による微気象観測



川上村で大杉谷WT第1回会合を開催し検討



大杉谷国有林でパッチディフェンスを現地踏査

モニタリング調査結果概要報告及び平成22年度事業計画の検討 (第2回ワーキングチーム会合)

3月3日(水)、三重県津市において、第2回ワーキングチーム会合を開催しました。

最初に、平成21年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査の報告について受託業者から説明をし、最後に平成22年度自然再生推進モデル事業実施計画について提案を行いました。

委員からは、「森林衰退状況調査により得られる多岐の調査データを蓄積し、植生図の作成も検討すべき」、「来年度調査を開始するまでに、専門部会で調査項目の細部について検討したい」などの意見が出ました。また、行政機関の環境省からは、隣接する大台ヶ原において実施している従来からのラス巻きを、来年度から景観にも配慮した樹脂ネットに変更する旨の説明がありました。



自動撮影装置による生息状況調査結果

ニホンジカ等11種類の動物種が確認できました。

ニホンジカ 2009.11.19 大杉谷国有林546林班



ニホンジカ 2009.7.31 大杉谷国有林560林班



ツキノワグマ 2009.7.9 大杉谷国有林548林班



ニホンザル 2009.7.14 大杉谷国有林560林班



アナグマ 2009.6.28 大杉谷国有林548林班



イノシシ 2009.8.16 大杉谷国有林549林班



キツネ 2009.10.9 大杉谷国有林546林班



テン 2009.6.27 大杉谷国有林548林班



ノウサギ 2009.7.14 大杉谷国有林547林班



タヌキ 2009.10.23 大杉谷国有林547林班



コウモリ目sp 2009.8.28 大杉谷国有林546林班



関係機関等との連携

年月日	内 容	主催者等	場 所
H21.12.14	大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議	環境省近畿地方環境事務所	大阪府大阪市
H22.2.5	大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 森林生態系部会への参画	環境省近畿地方環境事務所	奈良県奈良市
H22.3.1	大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会への参画	環境省近畿地方環境事務所	奈良県奈良市

推進体制

環境省 近畿地方環境事務所

大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会

森林生態系部会

植生保全対策WG(両部会合同)

ニホンジカ保護管理部会

- ・委員：有識者等
- ・関係機関：近畿中国森林管理局、奈良県、三重県、
上北山村、猟友会、森林組合

近畿中国森林管理局

大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム

- ・委員：学識経験者、地元関係者
- ・オブザーバー：環境省近畿地方環境事務所、三重県、奈良県、大台町、紀北町、
上北山村、川上村
(独)森林総合研究所関西育種場

奈良県

三重県

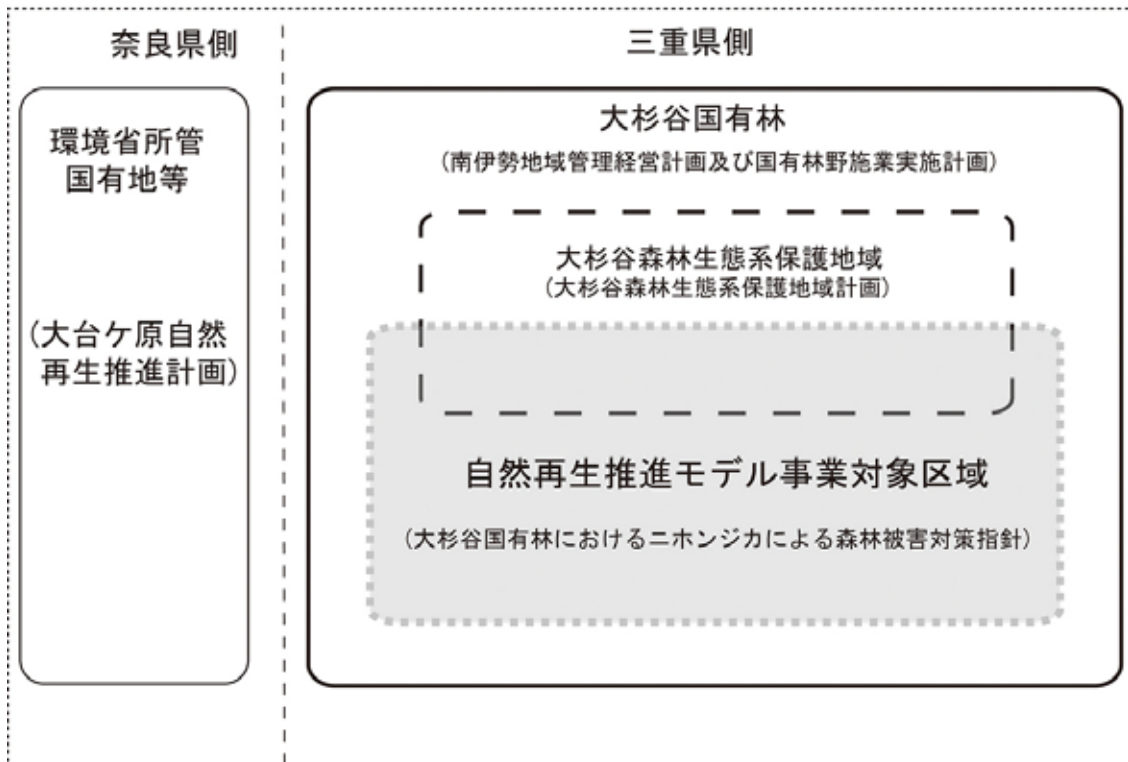
上北山村

川上村

大台町

紀北町

大杉谷国有林における「自然再生推進モデル事業」の対象区域



伊崎国有林の森林植生回復対策・カワウ対策支援

関係機関等との連携

年月日	内 容	主催者等	場 所
H21. 7.14	第1回カワウ総合対策計画検討協議会への参画	滋賀県	滋賀県農業教育情報センター
H21. 7.30	中部近畿カワウ広域協議会第1回幹事会への参画	環境省・滋賀県	コホ'しが21
H22. 2. 9	第2回カワウ総合対策計画検討協議会への参画	滋賀県	滋賀県大津合同庁舎
H22. 3.16	中部近畿カワウ広域協議会第2回幹事会への参画	環境省・滋賀県	コホ'しが21

滋賀森林管理署への支援

年月日	内 容	場 所
H21. 4.14・15	森林影響調査（営巣区域・分布調査、ベルトトランセクト営巣数調査）	伊崎国有林 (滋賀県近江八幡市)
H21. 5.12	カワウ被害対策試行(植栽木と試験地調査)	
H21.12.21	ねぐら調査	
H22. 3. 4	平成21年度カワウワーキンググループ会合	滋賀森林管理署



カワウの営巣状況[伊崎国有林]（白く見えるのはカワウの糞）

森林環境教育推奨事例集の作成

趣旨

近年、森林の有する多面的機能、とりわけ教育・文化的な機能に着目し、子どもたちに森林内での様々な活動を行わせることを通じて、森林のすばらしさや役割について学ぶとともに、子どもたちの「生きる力」をも育んでいくことを目的として、森林環境教育の取組が全国各地で展開されています。

近畿中国森林管理局においても、「遊々の森」制度の活用をはじめとして、森林管理署等の職員が各種イベントや小学校に出向いての森林教室の開催などを通じ、森林環境教育を積極的に推進しているところです。

森林環境教育の取組をより確実かつ広範に推進し、実働性を上げていくためには、学校教育のとりわけ小学校の教育課程の中で展開することが求められています。

そこで、箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、小学校と森林管理署等との具体的な連携、協力を念頭に置いて、今までに取り組まれてきた森林環境教育に関する様々な事例のうち、近畿中国森林管理局管内を中心に各道府県やボランティア団体、森林管理署等の協力を得て収集した1,305事例について、京都教育大学教授の山下宏文氏をはじめ高槻市立大冠小学校教諭の立花禎唯氏、林業家の波多野達二氏で構成する「森林環境教育推奨事例選定会議」に諮り、平成20年3月に改訂された小学校の学習指導要領に即した34事例を選抜・推奨し、「森林環境教育推奨事例集」として取りまとめたいただきました。

このため、本事例集は、小学校における学習指導要領に沿った単元学習とその展開にも活用できるよう取りまとめており、教室や校庭での学習から国有林等の森林をフィールドとした学習まで、小学校と連携・協力して、子どもたちの「生きる力」を育む森林環境教育の充実に役立てていただけるものと思います。

実施内容

- (1) 森林環境教育手法や教材の収集・整理
- (2) 森林環境教育推奨事例選定会議の開催
- (3) 森林環境教育推奨事例集の作成

森林環境教育推奨事例集作成の流れ

平成20年度

2月中旬まで

事例の収集

・各道府県、森林ボランティア団体、森林管理署等の協力により、1,305事例を収集

3月27日

事例の絞り込み

第1回事例選定会議

・104事例に絞り込み、小学校の低・中・高学年ごとに選抜・分類

平成21年度

事例の整理

7月27日

第2回事例選定会議

・選抜された34事例について、関連する教科・単元とその展開、学習指導要領における位置付けなどの構成を整理

推奨事例集(案)作成

8月28日

第3回事例選定会議

・推奨事例集の最終取りまとめ

8月下旬

推奨事例集 完成

・森林管理署等、森林ボランティア団体、各道府県等へ配布・普及



第3回事例選定会議の様子



完成した森林環境教育推奨事例集

○森林環境教育推奨事例集に掲載している事例の一例

どんぐり君のパンツ探し

事例元： ドングリランドで遊ぼう！学ぼう！体験しよう！
作成者： 香川県農林水産部みどり整備推進づくりグループ
住所： 〒760-8570 高松市番町4丁目1-10
電話番号： 087-832-3460 FAX番号： 087-861-5302
77-64 http://www.pref.kagawa.jp

・生活科の「秋をさがそう」などの単元で取り扱えます。
・ドングリと殻斗(パンツ)をマッチングゲームの手法で結びつけているところが秀逸です。
・理科など全学科でも取り扱えます。

アクティビティ11 「どんぐり君のパンツ探し」

ねらい
ドングリの形や大きさの違いや、殻斗の形をじっくり観察することによって、詳細な観察を促す。

実施の条件
○時間 20～30分
○人数 1人でも可能
○場所 教室
○材料 ドングリ、殻斗

進め方
①個人ずつに材料を配る。
②殻斗の形や大きさの違いや、殻斗の形をじっくり観察することによって、詳細な観察を促す。
③ドングリと殻斗をそれぞれに観察し、ドングリと殻斗に分けておく。
④ドングリと殻斗をそれぞれに観察し、殻斗の形をじっくり観察することによって、詳細な観察を促す。
⑤ドングリと殻斗をそれぞれに観察し、殻斗の形をじっくり観察することによって、詳細な観察を促す。

学習指導要領
高学年段階でドングリを題材に書く場合は、その木になっているドングリが観察する。

うげかし、さくら、あらかし

生きがいを伝

① ② ③

① ドングリの種類に当たっては、あらかじめ採取可能な場所をリストアップするとともに、生地の立木の順番表に計画を立てることが必要です。

② ドングリの重みだけでなく、重さや大きさも確認する時は「こすりだし調査」が有効です。

③ ドングリと殻斗(パンツ)のマッチングゲームのあと、実際に多くの木に入って観察することで、さらに学習を深めることができます。

学習指導要領(内容)における位置づけ

生活

① 身近な自然を観察したり、観察や地域の行事に合わせた活動を行うことなどによって、自然の恵みや季節によって生活の営みが変化することに気付く。自分たちの生活を工夫したり楽しむことなどを行うようにする。

② 身近な自然を観察したり、身近にある自然を愛するだけでなく、自分たちの生活や学習に活用したり、その恵みや地域の自然環境を大切に活用し、みんなできいぞくを築くことなどを行うようにする。

当センター主催及び共催による活動

森林環境教育セミナー

8月21日（金）、大阪府箕面市の箕面国有林において箕面市、豊中市の小・中学校の先生等（20名）を対象とした「森林環境教育セミナー」を開催しました。

このセミナーは、学校教育における森林環境教育の導入を推進することを目的として、箕面市教育委員会との共催により、京都大阪森林管理事務所の協力を得て、以下のプログラムにより実施しました。

10:00

I はじめの挨拶

10:10

II-1 講義

「森林環境教育の重要性と進め方」

11:10

II-2 体験学習

間伐体験(1・2班)

自然観察ビンゴ(3・4班)

12:30

III 昼食

13:00

II-2 体験学習

間伐体験(3・4班)

自然観察ビンゴ(1・2班)

14:20

II-3 木エクラフト

15:20

IV ふりかえり

アンケート

15:50

V おわりの挨拶

16:00



講義(講師：京都教育大学教授 山下宏文氏)



間伐体験



自然観察ビンゴ



木エクラフト



ふりかえり

参加した先生からは、「山下先生の講義を聴き、森林が減っていないことに驚かされた。木を伐るなどいい体験をさせてもらった」、「間伐を体験したが、伐る木にすぐにはさわれなかったし、伐ってもなかなか倒れず苦労した。この体験は子どもにも言える」、「来年間伐体験を行うことにしている。自分で伐った木を使ったクラフトはおもしろい」など、森林環境教育の推進に期待できる話も聞けました。

夏休み親子木工教室

8月7日（金）、近畿農政局、京都大阪森林管理事務所、当センターの共催による「夏休み親子木工教室」を京都農林水産総合庁舎で開催しました。

夏休みを利用して、子どもたちが木に親しみ、木の良さを知ってもらうために平成13年から行っているイベントであり、一般からの応募により、小学生の親子30組68名が参加しました。

子どもたちは、職員が準備した木の円盤やどんぐり、小枝などを利用して、思い思いに想像力を働かせ、創作を行いました。

また、今回から、国有林産の竹材も材料に加えました。子どもたちの手にかかると、竹材も大きなトンボや機関車に変わってしまいました。



職員の指導のもと親子で木工教室

インターンシップの受け入れ

平成21年度農林水産省就業体験実習生として学生1名を受け入れ、森林環境教育セミナーの開催（8月21日）にあわせ、8月17日から21日までの5日間、実習指導員として森林環境教育セミナーでの実施内容（企画、準備、実行）を中心に実習を行いました。

実習は5日と短期間でしたが、実習生の野玉さんからは「私が実習で学ばせてもらったことはほんのわずかなことだと思いますが、実際に職員の方々と同じ現場で5日間ともにすることで、現場の本当の雰囲気まで実感することができました。特に最終日の間伐などの林業体験は、職員の方々の手伝いをしながら、体験もさせてもらったので、職員としての野外での仕事の内容と林業の現場の大変さを自分なりに実感することができました」との感想が寄せられ、この実習を通し学び、体験、感じたことを先生、友達等にも伝えていただくことを期待するところです。



作品を手にする実習生の野玉さん

森林管理事務所への支援

養護学級の児童を対象とした森林教室

8月1日(土)、京都大阪森林管理事務所は、養護学級に在籍する児童と保護者(あわせて122名)を対象とした森林教室を、箕面市立障害者福祉センター「ささゆり園」において開催し、当センターは支援を行いました。

子どもたちからは、木の円盤をV字に切るとか、うまく接着できないのでなんとかしてほしい等の難しい注文が多数あり、スタッフは汗だくになって対応しました。

丸太切りで保護者といっしょにカーブ切り終えた子どもたちの笑顔は、私たちスタッフに喜びを与えてくれました。



丸太切りに挑戦

箕面市内の幼稚園児を対象とした森林教室

11月21日(土)、京都大阪森林管理事務所は、箕面市立せいなん幼稚園及びびがし幼稚園において開催された「製作展」に、木工教室コーナーを出展しました。当センターでは、箕面市立せいなん幼稚園の支援を行い、園児と保護者あわせて150名を対象として、丸太の輪切りや木片、ドングリ、小枝などを使って、自由に工作をしてもらいました。

園児たちは、とても楽しそうに、くまの顔や壁掛け、えんぴつのキーホルダーなどの作製に取り組んでいました。



上手に出来たかな

当センター主催及び共催による活動

年月日	対象者名	人数(名)	実施内容
H21. 8. 7	京都市内の小学生と保護者等	68	パワーポイント「森のはたらき」、木工教室
H21. 8. 21	箕面市、豊中市の小・中学校の教諭等	20	「森林環境教育の重要性と進め方」についての講義、間伐体験、自然観察、丸太切り、木エクラフト

森林管理事務所への支援

年月日	対象者等	人数(名)	実施内容
H21. 8. 1	箕面市内の養護学級の児童、保護者	122	木エクラフト
H21. 11. 21	箕面市立せいなん幼稚園 園児、保護者	150	木エクラフト

森林ボランティア活動への支援

森林ボランティアリーダー養成スクールフォローアップ事業

趣旨

国民の3人に2人はボランティア運動への参加意欲をもっているなど、国民の社会参加意識の高まりに加え、ボランティア活動への理解と環境問題への関心が高まり、近年、多様な主体による森林づくり活動が活発化しています。

これまで近畿中国森林管理局においては、これらの森林ボランティアへの支援活動として、各森林ボランティア団体のリーダーとなるべき人材の育成を目的に、平成12年度から「森林ボランティアリーダー養成スクール」を実施し、基礎的な安全管理に関する知識・技術に加え、植生、土壌、育林、森林計画、林産、木材利用など森林・林業の基礎分野の講義・実習等を行い、延べ150余名のリーダーを養成してきました。

当センターでは、これまで実施してきた養成スクールの修了生へのアンケート調査や意見交換会を行い、これまでの養成スクールの実施内容等を検証し、今後、各森林管理署や各ボランティア団体等における実施の参考となるような体系的なモデルカリキュラムを作成するものです。

実施内容

- (1)森林ボランティア養成スクール修了生のアンケート結果の分析
- (2)モデルカリキュラムの作成
- (3)モデルカリキュラムの実践、普及

アンケート結果の分析等

これまで、当センターで実施してきた森林ボランティア養成スクールの修了生（平成16年度初級、平成17年度中級、平成18年度マイスター、平成19年度初級）を対象に平成20年度にアンケート調査を実施し、今年度は別紙のとおり結果の取りまとめ、分析を行いました。

今後これを基に、モデルカリキュラム(案)の作成、実践等を検討する「モデルカリキュラム作成委員会(仮称)」を設置し、モデルカリキュラムを作成することとしています。

「森林ボランティアリーダー養成スクール」についてのアンケート調査結果概要

1 目的

近畿中国森林管理局では森林ボランティア活動への支援として、森林ボランティア団体のリーダーを養成することを目的として、平成12年度より「森林ボランティアリーダー養成スクール」を実施し平成16年度に箕面森林環境保全ふれあいセンターが設置されたことに伴い、同年度に初級コース、平成17年度に中級コース、平成18年度にマイスター、更に平成19年度に若年層を対象にした初級コースが実施されました。

当センターでは、平成16年度より行われてきた養成スクールの効果や改善点を検討し、今後、森林管理署や各ボランティア団体等が実施する際の参考となる体系的なモデルカリキュラムを作成するためアンケート調査を実施しました。

2 アンケートの要点

- 1) 実施した講義、実習の活用度
森林ボランティアの指導者として役に立った講義、実習の把握。
- 2) 各コース毎のカリキュラムの適否
初級、中級、上級別の適切な講義、実習の把握。
- 3) 実施していない講義、実習の要請度
養成スクールのカリキュラムに追加が必要な講義、実習の把握。
- 4) 実施時期の要請度
実施に適した時期及び曜日設定の要請度の把握。
- 5) 継続的な開催への参加意欲
今後の養成スクールへの参加希望の把握。

3 実施時期

平成20年12月中旬～平成21年1月中旬

4 対象者

平成16年度初級34名、平成17年度中級25名、平成18年度マイスター15名、平成19年度初級18名の計73名の修了生を対象とする（対象者73名中51名から回答があり、回収率は70%）。

5 アンケート調査結果の概要と分析

- 1) 実施した講義、実習の活用度
修了生のうち6割が「森林ボランティア活動をしている」若しくは「活動の予定がある」と回答している。主な活動内容としては、植樹、除伐、間伐などの森林整備、里山整備等となっており、これらの回答者からは「役に立った講座があった」と回答を得ていることから、平成16年度から19年度まで実施してきた講座の内容等を基本に、モデルカリキュラムを作成することが望ましいことが伺えます。

なお、具体的に役に立った講座としては、「間伐」、「各種造林作業」、「林業機械」、「安全管理」などとなっており、重点的な講座として盛り込むことが必要と考えます。

2) 各コース毎のカリキュラムの適否

平成16年度から実施してきた初級、中級、上級別の講座の設定には重複する講座やレベルにあわない講座があるとの意見もあり、各コースのレベルに応じた講座を計画することが必要と考えます。

3) 実施していない講義、実習の要請度

実施していない講座で、加えてほしいとの意見が多かったのは「刈払機」、「竹林整備」。充実を望む講座としては「里山整備」、「安全管理」、「間伐」、「視察」、「森林ボランティア」に関するものが多くあり、これらの意見はモデルカリキュラムに取り入れていくことについても検討が必要と考えます。

また、講義よりも実習を増やすべきとの意見が多く、現地での体験による技術習得が望まれており、講義と実習のバランスを見ながら、現カリキュラムで最終日を講義、修了式としているものを、実習に当てて修了式を現地で行うことなどの意見が考慮すべき点として示されました。

4) 実施時期の要請度

実施に適した時期及び曜日の設定については、月1回で、土曜日か日曜日の開催に要望が強いことについても考慮すべき点です。

なお、季節への要求度はあまり顕著ではありませんでした。

また、交通費、保険代等の自己負担の限度額は、回答の平均が2,933円で、3,000円くらいの設定が妥当と考えます。

5) 継続的な開催への参加意欲

「参加したくない」と回答した者は無く、「内容を見て検討する」が「参加したい」と回答した者の約2.5倍であり、養成スクールに参加してもらうには、初級、中級、上級とレベルに応じて向上が図られるよう講座の内容等を充実していくことが重要と考えます。

6 モデルカリキュラムの作成

以上のアンケート調査結果概要を踏まえて、森林ボランティアリーダー養成スクールモデルカリキュラム(案)の作成を行い、各森林管理署等や各ボランティア団体等で活用できる仕組みについても検討していくことにしています。

グループ対抗 里山デジカメ選手権

テーマ:身近な森林の再発見^{もり}

里山と呼ばれる農村や街の周辺にある身近な森林は、近年における林業の低迷やエネルギーの石油依存などを背景として、手入れがなされずに荒廃が進んでいます。

箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、このような里山などの保全・再生を重要な活動の一つとしています。

平成19年度から実施している「グループ対抗里山デジカメ選手権」は、今日急速に普及したデジタルカメラを用いて、里山などの動植物の姿や保全、再生活動の一瞬を切り撮った3枚の組写真を募集し、優れた作品を顕彰することを通じて、里山の現状や役割を多くの人に伝えることを目的とし、今年で3回目となります。

今年度も、「身近な森林の再発見^{もり}」をテーマとして、募集したところ、東は新潟県から南は沖縄県まで15府県から、学校、森林ボランティア団体、企業、家族など多彩なグループによる83組249枚の作品を寄せていただきました。

これらの作品については、第一次審査により30組90枚が選定され、その後最終審査が行われました。

最終審査会は、11月7日(土)に、滋賀県立琵琶湖博物館において、写真家の今森光彦氏と農学博士の只木良也氏及びフリーアナウンサーの青山佳世氏を審査員にお迎えし、公開による作品の展示とグループ代表による日頃の活動や作品の説明、里山への思いのスピーチをしていただきました。その結果、最優秀賞(林野庁長官賞)1組、琵琶湖博物館長賞1組、優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)7組が決定しました。

また、今回は、最終審査会に先立ちフリーアナウンサーの青山氏を進行役に今森氏、只木氏、当森林管理局の下地頭所森林官が加わり「身近な里山」をテーマとしたミニトークショーを行い、里山に対する思い入れ、活動などをトークしていただきました。

グループ対抗里山デジカメ選手権入選・応募作品展示

入選作品、応募作品については、大阪市(近畿中国森林管理局の森林のギャラリー)、京都市、草津市、岡山市において展示を行いました。

平成21年度入選・一次審査選定・応募作品展示

滋賀県立琵琶湖博物館(草津市)	平成21年11月7日～11月23日
近畿農政局(京都市)	平成22年1月4日～1月29日
近畿中国森林管理局(大阪市)	平成22年2月1日～2月19日
中国四国農政局(岡山市)	平成22年3月1日～3月12日



平成21年度 グループ対抗 里山デジカメ選手権

最優秀賞（林野庁長官賞）

『菅平の黄門様』とお付きふたりが森をゆく」



平成21年度 グループ対抗
里山デジカメ選手権
身近な森林の再発見!! 入選作品集

林野庁長官賞作品一部

最優秀賞展覧会

『菅平の黄門様』とお付きふたりが森をゆく

琵琶湖博物館長賞作品一部

里山デジカメ選手権の審査員がかる
『身近な里山』

主催 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター
共催 滋賀県立琵琶湖博物館 / (財)水と緑の恵星保全機構・里地ネットワーク
協賛 (株)ニコン
後援 朝日新聞大阪本社 / 大阪放送局 / (財)森林文化協会 / 毎日新聞社大阪本社

詳細については当センター発行の「平成21年度
グループ対抗里山デジカメ選手権入選作品集」を
ご覧ください。

その他

箕面森林環境保全ふれあいセンター運営推進懇談会

趣旨

森林環境保全ふれあいセンターは、国有林野を活用し、地域住民、NPO等が行う自然再生活動、生物多様性の保全等や森林の有する多面的機能の発揮についての理解を深めるために、教育関係者等が行う森林環境教育等に対して技術的指導その他支援等の取組を行う拠点として設置されました。

箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、森林づくり活動や自然再生活動を行っているNPO及び森林環境教育を推進している教育関係者等の要望を的確に反映した取組等を行うため、当センターの運営に関して、学識経験者、森林ボランティア活動を行っている者及びマスコミ関係者をメンバーとする懇談会を設置し、懇談会等からの意見及び要望等を反映させた対話型の取組、ふれあいセンターの効率的な運営を推進することとしています。

テーマ

ボランティアによる森林整備活動に関すること
森林環境教育支援活動に関すること

自然再生に関すること
情報の受発信に関すること

懇談会委員（五十音順、敬称略）

- ・ 金井久美子（NPO法人地球緑化センター事務局次長）
- ・ 北出 昭（毎日新聞社京都支局長）
- ・ 山下 宏文（京都教育大学教授）

平成21年度第1回懇談会

12月3日(木)及び4日(金)、大阪府箕面市の箕面国有林及び兵庫県川西市において、当センターの効率的な運営を推進するため、委員であるNPO法人地球緑化センター事務局次長の金井氏、毎日新聞社京都支局長の北出氏、京都教育大学教授の山下氏に出席いただき、本年度第1回目の運営推進懇談会を開催しました。

1日目は、箕面国有林「エキスポ'90みのお記念の森」において、平成19年度から取り組んでいる「オオクワガタの棲める森づくり」について当センターの担当から説明し、現在、箕面市内の小学生、幼稚園児、地域住民等に育ててもらっているクヌギ、コナラなどの落葉広葉樹の植樹を行う展望台周辺を視察していただきました。

その後、川西市の兵庫県立一庫公園ひとくらに移動し、公園管理事務所の名和参事から公園の概要説明を受け、公園の設置目的



にもなっているクヌギ萌芽再生林等を案内していただき、「オオクワガタの棲める森づくり」で目指している台場クヌギに代表される里山づくりを視察することができました。

2日目は、同じく川西市において懇談会を開催し、当センターの本年度の活動状況について、各担当から説明を行いました。各委員からは、「オオクワガタの棲める森づくり」について、「オオクワガタから歌まで発展していている。皆さんの努力の成果が出ている」、「アンケート調査で植林したいという希望が多かったということだが、植えたら育てることも同時に大切だと伝えることが大事」、「森林環境教育推奨事例集」について、「森林環境教育というと、方法に関する活動や体験が主であり、内容が追いついていない部分があるという気がするの、そういったところも考えてもらいたい」などの意見等がありました。

最後に当方から、「本日いただいた意見等は、今後のセンターの活動に活かしていきたい」と挨拶し、懇談会を終了しました。

その後は兵庫県立大学教授の服部保氏に、先生が日本一の里山と絶賛する川西市黒川地区の台場クヌギ林を案内していただき、そのクヌギを使い、「池田炭」と呼ばれる茶道用の高級炭「菊炭」を焼いているただ一軒の窯も見学し、里山整備、菊炭づくりとも重労働から従事する者がいなく、こうした見本となる里山を守っていくためには、担い手の育成が急務であることを実感したところです。

(炭の切り口が菊の花の模様をしていることから、「菊炭」と呼ばれています。)



平成21年度第2回懇談会

平成22年2月26日(金)、京都市内で平成21年度第2回懇談会を開催しました。

当ふれあいセンターから、平成21年度活動実績及び平成22年度活動計画(案)について説明を行った後、意見交換を行いました。

委員からは、森林ボランティアリーダー養成スクールフォローアップ事業について、「森林環境教育推奨事例集と同様に、ボランティアリーダー養成も県等で実施している事例を集めてきて、それを参考にしてください」、「全く森と関わらない人が多いのだから、そういう人達にどうやって関心を持ってもらうかがこれから大事」、里山デジカメ選手権について、「作品数が増えることが重要であるので、増えるような働きかけをしていただきたい」などの意見等がありました。

これらの貴重な意見等は検討のうえ、今後のセンターの活動に活かしていきたいと考えています。

各種活動

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H21. 4. 4	関連講座「ドングリの木を育てよう～オオクワガタの棲める森づくり～」への参加	人と本を紡ぐ会、箕面市立西南図書館	箕面市
H21. 4.14	KEFFネット構築準備委員会への出席	森林ボランティア団体、森林インストラクター会	森林管理局
H21. 4.23	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会設立総会への出席	森林ボランティア団体、大阪府、箕面市ほか	箕面市
H21. 5.16	「花と緑を楽しむ祭典 グリーンフェスタ2009」への参加（オオクワガタの棲める森づくり）	実行委員会、OAPほか	大阪市
H21. 5.28	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第1回例会への出席	森林ボランティア団体、大阪府、箕面市ほか	箕面市
H21. 6.18	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第2回例会への出席	森林ボランティア団体、大阪府、箕面市ほか	箕面市
H21. 6.26	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会第1回幹事会への出席	大阪府、箕面市	箕面市
H21. 7.22	みのおエフエムへの出演（オオクワガタの棲める森づくり）		箕面市
H21. 7.23	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第3回例会への出席	森林ボランティア団体、大阪府、箕面市ほか	箕面市
H21. 8. 3	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会総会への出席	大阪府、箕面市ほか	箕面市
H21. 8.19	みのおエフエムへの出演（オオクワガタの棲める森づくり、グループ対抗里山デジカメ選手権）		箕面市
H21. 8.27	大阪府内国有林野等所在市町村長協議会への出席	大阪府、国有林野等所在市町村	大阪市
H21. 9.11	京都三条ラジオカフェ79.7への出演（グループ対抗里山デジカメ選手権）		京都市
H21. 9.17	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第4回例会への出席	森林ボランティア団体、大阪府、箕面市ほか	箕面市
H21. 9.28	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会第2回幹事会への出席	大阪府、箕面市	箕面市

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H21. 9.29	KEFFネット構築準備委員会への出席	森林ボランティア団体、森林インストラクター会	森林管理局
H21.10.10 ・11	水都おおさか森林 ^{もり} の市への支援		森林管理局 周辺
H21.10.22	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第5回例会への出席	森林ボランティア団体、大阪府、箕面市ほか	箕面市
H21.11. 1	箕面市民イベント「みどり 生き生き みのお 生き生き 体験フェア」への参加(オオクワガタの棲める森づくり)	実行委員会、箕面市ほか	箕面市
H21.11.12 ・13	森林・林業交流研究発表会への参加「発表課題：オオクワガタの棲める森づくり」		森林管理局
H21.11.15	箕面の森の音楽会への参加(オオクワガタ ^す の棲める森づくり)	実行委員会、箕面市ほか	箕面市
H21.11.26	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第6回例会への出席	森林ボランティア団体、大阪府、箕面市ほか	箕面市
H22. 1.19	KEFFネット構築準備委員会への出席	森林ボランティア団体、森林インストラクター会	森林管理局
H22. 1.21	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第7回例会への出席	森林ボランティア団体、大阪府、箕面市ほか	箕面市
H22. 2.25	森林・林業の普及に関するネットワーク会議への出席	森林ボランティア団体、森林インストラクター会	森林管理局
H22. 3. 4	国有林モニター会議への出席		箕面国有林
H22. 3.18	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第8回例会への出席	森林ボランティア団体、大阪府、箕面市ほか	箕面市

主な活動

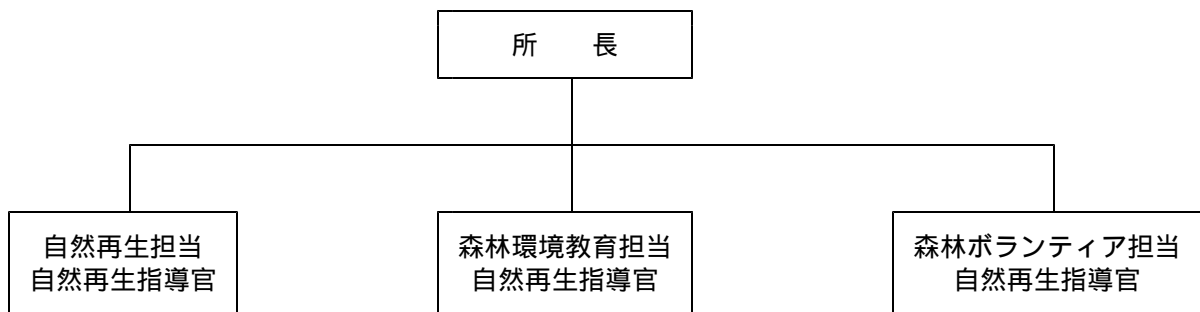
主な活動としては、自然再生への取組、森林ボランティア活動や森林環境教育活動への支援などです。

活動フィールド

大阪府と京都市にある国有林が主な活動フィールドです。

なお、近畿中国森林管理局管内全域において、ニーズ把握を行い、必要に応じてそれらのニーズを踏まえた活動を展開しています。

役割分担



センターへの行き方



地下鉄烏丸線丸太町駅から徒歩約10分
市バス府庁前から徒歩約7分

平成22年3月

箕面森林環境保全ふれあいセンター（林野庁・近畿中国森林管理局）

602-8054 京都府京都市上京区西洞院通り下長者町下ル丁子風呂町102

京都農林水産総合庁舎内

電話：075-414-9049 ファックス：075-414-9029

ホームページ <http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/fureai/>